

溶融炉の長寿命化に関するリスクの確認

1. 機種によっては長寿命化が困難な場合がある。

2. 長寿命化の事例がない場合は事業費がメーカー側の「言い値」になる。

3. どのような理由があっても1年以上休止した場合は国から再稼動又は廃止を求められる。

4. 溶融スラグの安定的な利用が行われていない場合は補助目的を達成していないと判断される。

5. 塩分濃度の高い飛灰の溶融処理を継続する場合は水蒸気爆発のリスクが高くなる。